

淀川水系河川整備計画策定にむけての説明資料(第1稿)について

概要版

河川環境

現状の課題

- これまでの堤防や河川敷等の整備、ダム、堰などの建設により、川の横断方向、縦断方向が分断されるとともに、瀬・淵の減少など生物にとってすみにくい川となっています。
- 堰やダムによる水量・水位調節によって川本来の水位変動や攪乱を減少させ、川らしさがなくなりました。
- 近年では以前よりも水質が改善されましたが、水に親しんでいた頃のレベルにまで回復していません。

河川形状

■コンクリート護岸による生物の生息・生育環境の不連続



河川形状

■猪名川、藻川の堰・床固設置状況

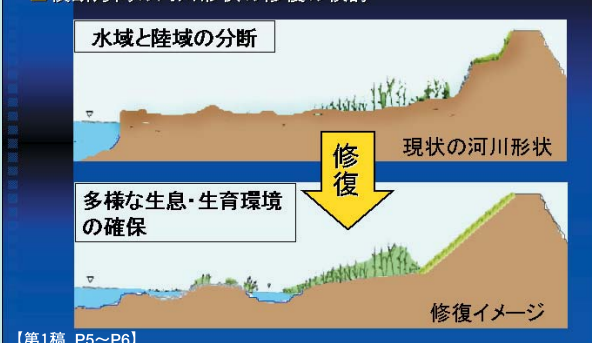


今後の整備に向けて

- 今後の河川改修は、横断方向、縦断方向の連続性の修復をめざすとともに、瀬と淵が形成されるなど、生物にとってすみやすい川の修復を図ります。
- 河川敷の切り下げ等により生物の生息・生育環境に大切な水辺への連続性を確保するなど、水際の改善を行います。
- 魚などの生物の移動が容易にできるよう河川横断工作物の改善を検討します。
- 生態系や水道水源として望ましく、安心して水辺で遊べる水質をめざします。

河川形状

■横断方向の河川形状の修復の検討



生態系

■汽水域干潟・ヨシ原の保全および再生の検討



治水・防災

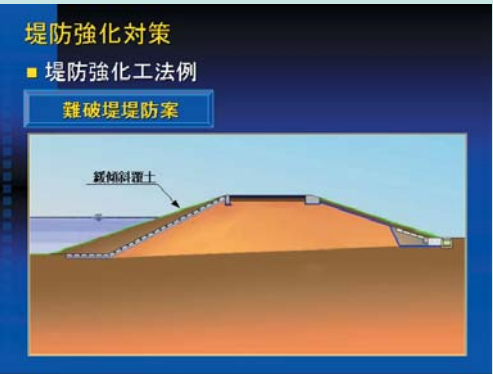
現状の課題

- これまでは、一定規模の大雨を目標にして洪水を早く下流へ流せるよう堤防を作り、川を掘るなどの整備を行ってきました。
- しかし、平成12年の東海豪雨のように、私たちの想定以上の豪雨が起っています。
- 土砂でできた堤防は、洪水に対して万全ではありません。
- 一方、市街地では高い堤防のすぐ近くまで家が建ち資産が集中し、ひとたび堤防が壊れると（破堤）、人命が失われ家屋が壊れるなど壊滅的な被害が生じます。
- 破堤による被害の深刻度（被害ポテンシャル）は今も増え続けています。
- また、川幅が狭くなっている所（狭窄部）の上流の盆地など、洪水被害を受けやすい地域があります。



今後の整備に向けて

- 対象洪水の規模を設定するのではなく、いかなる大雨に対しても破堤による被害の回避・軽減することを目標とします。
- 避難経路などを示した地図（ハザードマップ）の作成や地下街などでの洪水時の避難・誘導体制を進めます。
- 被害ポテンシャルを低減させるため、土地の利用方法や流域の貯留・浸透機能を強化します。
- 堤防を、できるだけ壊れにくいよう強化します。
- 狭窄部上流の浸水被害の軽減を図ります。



利 水

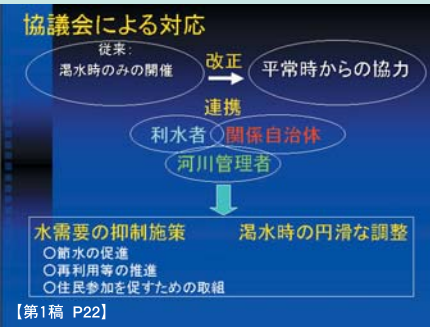
現状の課題

- 淀川水系の水は、滋賀県や京阪神地域等の約1600万人の暮らしと経済を支えてきました。
- 高度経済成長や人口の増加によって水の需要が急激に増え、これに応えるため、ダムや琵琶湖総合開発事業などの整備を行ってきました。
- 近年では、工場での水の再利用が進むとともに、都市化に伴って農地面積が減り人口の伸びも鈍るなど、水の需要は変化しています。
- 一方、近年、雨が降る量が少なくなり、渇水が度々起こる傾向となっています。



今後の整備に向けて

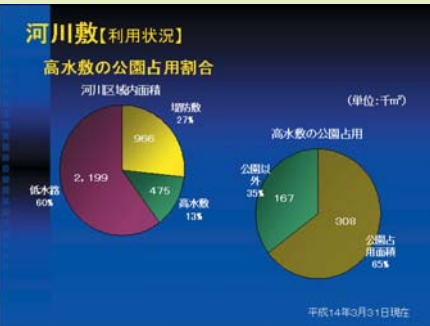
- 水の利用の実施を踏まえ、水を使用する権利の見直しと用途間転用などの合理化に努めます。
- 既存のダムや堰について、貯水容量の効率的な配分（再編）や運用方法の見直しを行い、水資源の有効活用を図ります。
- 利水者、自治体、住民等と連携し水の利用に関する協議会を組織して、平常時から水の需要を抑制するための方法を検討します。



利 用

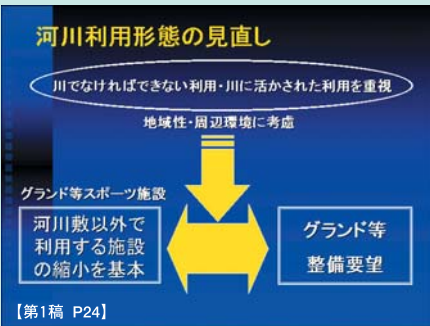
現状の課題

- 河川敷は、過密化する市街地では貴重なオープンスペースであり、地域の要請に応え、グランド等の整備が進められてきました。
- 一方、河川敷での人口的な施設の整備は、川の生態系に影響を与えています。



今後の整備に向けて

- 河川敷は、「川でなければできない利用・川に活かされた利用」との考えに立ち、グランド等の本来河川敷以外で利用するものは縮小していくことを基本とします。
- 一方、住民や自治体等からはグランドなどのスポーツ施設に対する要望が強く、学識経験者や沿川自治体、地域の住民等からなる河川利用委員会（仮称）を設置して広く意見を聴き、個々の案件ごとに判断します。



ダム

現状の課題

- 淀川水系のダム群(天ヶ瀬ダム、瀬田川洗堰、高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム、日吉ダム、一庫ダム)は、社会要請に応えるべく、治水、利水に対し、その役目を果たしてきました。
- その反面、河川的环境や生態系に影響を与えているのも事実です。また、ダムの建設は広範囲にわたる水没を伴い地域社会に大きな影響を与えました。

今後の整備に向けて

- 他に経済的にも実行可能で有効な方法がない場合に、ダム建設に伴う社会環境、自然環境への影響を軽減する方策も含め、他の河川事業にもまして、より慎重に検討した上で、妥当と判断される場合のみ実施します。
- 現在事業中の5ダム(大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発、川上ダム、丹生ダム、余野川ダム)は、上記の考え方にもとづき見直しを行っています。

住民参加

現状の課題

- 住民が安心して暮らせる社会の実現を目指して、河川管理者が主体となって河川の整備を行ってきました。
- 今後の河川整備は、河川管理者のみによる河川内での対応では限界があります。したがって、単に川だけでなく流域一体となった対応が重要です。
- 河川管理者、自治体、企業、住民等流域のあらゆる関係者が連携し協働することが大切です。

今後の整備に向けて

- 情報の公開と共有化を進めます。
- 河川整備を進める様々な場面で、住民が参加し、意見を述べ、行動できる仕組みを作っていきます。



国土交通省 近畿地方整備局 猪名川工事事務所

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川総合開発工事事務所

お問い合わせは…猪名川工事事務所 河川整備計画説明会 係 TEL.072-751-1111